

# やまゆり

学校だより

令和5年6月5日  
17号  
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」  
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一  
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育目標重点 「居心地良く、やる気のある学級づくり」⇔「確かな学力の育成」

## 「高村先生」が2年生の音楽科の研究授業・研究会をしました

6月1日(木)に、本校の研究主任をしている「高村江里子」先生が、2年生の音楽の授業を公開し、研究会を開催しました。この研究授業には、総勢20名の教職員が参加しました。本校職員  
の他、小学校の先生方や都留文科大学の武蔵先生、また、早稲田大学の高橋先生、交流している新潟県の粟島浦中学校の久保研究主任さんにもオンラインでご参加いただきました。

6月に小中連携や複数の大学の専門の先生方、他県の中学校ともICTを活用し、研究会を開催しているのは県内でも本校のみだと思います。大変な労力が必要ですが、学習指導の充実  
は、学校教育の核心だと考え実践しました。大きな成果を得られたのは、2年生の生徒の努力  
であると同時に、昨年度まで指導していただいた先生方、本年度の全職員の指導体制の継続による  
ところが大きいと思います。本校の教育の充実のためにも、県内の教育に貢献するため  
にも、今後も努力いたします。

宿泊学習での成果を学習にも生かす2年生

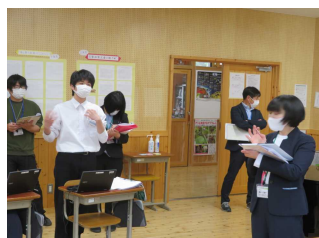


課題追求に集中する生徒 効果的なICT活用



自分の思いを語る生徒

小中連携の体制



## オンラインで授業を参観した「早稲田大学の高橋先生」の指導・評価

今日は参加させていただきまして、ありがとうございました。

学級内のリレーション(規律と人間関係)が確立していることから、その上に教科の言語活動をのせることで、生徒の主体的な活動を組み立てることができていました。また、問いの前の平等と協働を展開するための「しかけ」が効果的に働いていました。

生徒の様子として、話型を使って話している様子が見られました。例えば、最初のディスカッションでは、「～に注目して」、「～について」など指導してきた話し合いのスキルが身につけていました。

また、音楽の用語を理解しているので生徒同士の話し合いをスムーズに行えました。基礎知識を理解していることで、共有がスムーズになっていました。

生徒は、それぞれが注目する観点から見ているのですが、同じ教材であることから、相手が違う観点で検討していたとしても相互の意見が刺激になり新しい観点到気づく様子が見られました。

例えば、長さや音程の上下で意見を共有する様子が見られました。

また、話し合いの途中で、生徒が楽譜を見る様子が何度も見られました。話し合いで拡散した思考から教材に立ち返ることができていました。

次回の訪問が楽しみです。

## 授業を参観し、研究会にも参加して頂いた都留文科大学の武蔵先生の指導・評価

本日は貴重な機会を頂きましてありがとうございました。

WEBQUを活用し、生徒の安定と活性化が高いレベルで実現できていると感じました。その上で、教科の言語活動を通して、「本音で語る自己開示」の交流が素晴らしかったです。課題設定で、自分の考えに気づき、交流によって友人の考えに気づき、再度自分の考えに立ち返ることで根拠となる知識・技能を確認し、自分の考えを広げたり深めたりする場面を直接見ることができ、感動しました。

交流の場面での、相手の目を見て話す様子や自然な拍手から、コミュニケーションスキルが身につけてきていると感じました。

その場面で、高村先生が一人一人の発言を認め、勇気づけている指導の継続が、生徒の安心感と主体性につながっていると感じました。大学生でも、コミュニケーションによる見方や考え方の広がりや深まりをつくるのが難しくなっています。

温かい言語活動の交流の中で、学力を育成し、教育課題も改善するという道志中学校の研究の意図が明確に伝わる素晴らしい授業であり、提案性の高い授業でもありました。

文大や他大学の先生方との組織で、学習に関する「内発的動機づけ」と「承認」との関係について研究しています。本日の午前中に出た最新の研究結果では、お互いの「承認」関係があることを基盤に学びの「内発的動機づけ」が高まることが証明されました。近々学会で発表しますが、本校の研究の基盤は、生徒同士の「人間関係の充実」です。学習においては、このことがとても重要です。自信をもって研究を推進して頂きたいと思います。

さらに、人間関係が充実して、お互いを「承認」できる関係の集団は、「内発的動機づけ」が伝播(でんぱ)することも分かりました。認め合える集団は、学びに対する内発的動機づけも向上します。今後の研究が楽しみです。

授業を提供して頂き、研究会にも参加させていただきましてありがとうございました。

ご指導を頂いた都留文科大学の武蔵先生



お礼のメールも頂きました

○メンバーの関係性が良い学級では学びがたくさんあることを目の前で見て頂き、感動しました。高村先生の生徒への対応が温かく、涙が出そうな場面もありました。  
○20年前、文大の河村研究室に來訪されてから、情熱ある実践や信念に触れるたびに「すごい」と感じていたことを思い出しました。また、継続していることに敬服致します。



## 高村先生の授業実践をもとに研究会を行いました

当日、4:30分から40分程度に時間を限定して研究会をしました。この時間は、生徒が部活動をしていました。そのため、体育館の部活動とグラウンドの部活動を教職員で分担して指導し、研究会を行いました。生徒の部活動の時間を確保しながら怪我也防止し、働き方改革の中で勤務時間内に工夫して研究会を行いました。

司会を組谷先生が行い、全職員が成果や課題について発言しながら協議しました。栗島浦中学校の久保研究主任さんと文大の武蔵先生からもご意見や指導を頂きました。



### 単元を貫く課題解決学習

#### 提起 「単元」で指導

- ・号令なし
- ・本時のめあて説明なし
- ・教職員が何も言わなくても生徒が活動を開始できる

#### 安定づくり

- ・班の3つの機能の徹底

#### 主体性・活性化づくり

- ・目標の明確化 B・A評価
- ・課題設定の重要性
- ・交流による他者からの学び

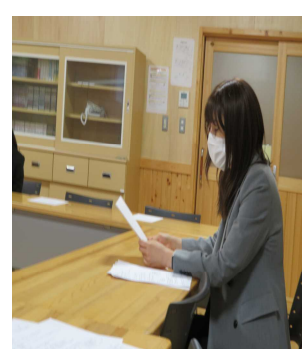
研究会の司会 組谷先生・記録・発言する鈴木先生 栗島浦中久保先生 本音の意見は大切！



2年職員 外川先生 生徒会顧問 三浦先生



養護教諭 宮本先生 文大 武蔵先生



## 高村先生と2年生が示してくれた学習から学ぶ

- ① 学習指導における目標設定は、学習指導要領の指導事項に設定すること。
- ② 学習への不安を解消し、主体性向上のためには人間関係の充実による安定が重要。
- ③ 学級の安定は、班の居場所づくり・学級目標達成の組織づくり・非認知能力の育成による特定化信頼を普遍化信頼に移行することを基盤とする。
- ④ めあてを適え、学習意欲を高める「課題設定」の重要性。2年生が各自が感じる曲の魅力について、音色・旋律・形式の三項目から、各自が自分の考えを形成しようとしていた。
- ⑤ 対象やテキスト(フーガ短調)の指導者の解釈を、生徒が理解するのではなく、各自が魅力について知識や技能を根拠に自分の考えを形成する過程で3観点の学力を育成する「単元を貫く課題解決学習」の提示。
- ⑥ 一人一人の生徒が「本音」で自分の考えを形成し、「自己開示」しながら友人と本音の感情交流と知的交流をすることによって、全員がB評価を達成し、人間関係の充実を図る実践の提示。
- ⑦ 対象やテキストを各自が捉える活動は、「生徒の各自の解釈」である。そこで、考え方の間違いや浅さ、独自性や優秀性等を確認し、目標を達成するために目的をもった主体的・意図的な「交流」を実践した。
- ⑧ 上記⑦を受けて主体的な交流を果たし、自分の考えの見方や考え方、根拠等について交流意見を反映させながら、自分の考えを「再構成」する活動の実践を提示した。
- ⑨ 生徒の思いと実力に寄り添う、視覚的な座席表の活用。※本校独自 全教科使用
- ⑩ 生徒への対応の適切さと丁寧な実践。生徒の考えを受け入れ、教科の目標達成に必要な判断力と確かな教材研究による対応の適切さ。
- ⑪ ICTの効果的な活用。特に、教材の音楽(テキスト)を各自がどの部分でも、何度でも繰り返して聞けるICTの活用によって、本単元やめあての達成が可能になっている。ICTを使うレベルから、目標達成に有効なツールとして生徒自身が使いこなしている。
- ⑫ 班の3つの機能の安定づくりと全教科の単元を貫く課題解決学習によって、本校の生徒の学級・学校満足度は、昨年度からさらに向上した。その実績の中心となる研究主任としての力量と研究授業を最初に公開した主体性と実行力。
- ⑬ 研究授業の視点や協議の柱立てが明確。そして、全員が研究授業に主体的に関わり、協働性・同僚性を発揮しながら研究している。安定と活性化は、生徒の見本。

音楽を何度も聞く必要性 各自の課題のレベルの高さ てびきに見入る小の先生 愛ある指導

